

# 多喜二祭今年は22日

## 小樽 参加しやすい週末に

小樽ゆかりのプロレタリア作家小林多喜二(1903〜33年)をしのび、命日の2月20日に行われてきた「多喜二祭」(実行委主催)が今年と同22日に開かれる。毎年開催になった1988年以降初めてで、多くの人が参加しやすい週末開催に変更した。実行委は来年以降、日程を厳寒期から移すことも検討中で2月開催は最後となる可能性もある。

(渡辺佐保子)

## 来年以降 厳寒期から移行も

多喜二は秋田出身で小樽育ち。小樽高商(現小樽商大)卒業後、26歳で「蟹工船」を書きプロレタリア文学の旗手として注目された。29歳の時、特高警察に逮捕され、拷問を受けて亡くなり今年没後87年となる。

多喜二祭はかつて5年ごとに開かれたが、多喜二の精神を伝えようと、88年からは命日に毎年開催。道内外から毎年参加する熱心なファンもいる。ただ、命日とすることで平日開催にな

ることも多いため今回、参加しやすい土曜日に開催日を選んだ。

さらに実行委メンバーの高齢化が進み、厳寒期の2月開催は体調面などの負担が重く、来年以降は日程変更を検討。実行委は奥沢墓地(奥沢5)に小林家の墓が建った6月の開催を想定し、2月の命日は少人数で

多喜二をしのぶ意向だ。実行委の大地厳事務局長は「多喜二の思いを伝える活動は続けていく」と話している。

今年の多喜二祭は22日午

前11時から奥沢墓地で墓前祭。午後2時から市民センター・マリンホール(色内2)で「記念のつどい」を開き、バイオリン演奏と、元文部科学事務次官の前川

喜正氏が「安倍政権下の教育」をテーマに記念講演する。参加費1200円(高校生以下無料)。問い合わせは大地さん ☎080・6099・1815へ。